

# S.F.A.通信 第24号

(和歌山県漁業士連絡協議会報)

平成30年10月

発行：和歌山県漁業士連絡協議会

## S.F.A. (=Senior Fishery Adviser、漁業士)

### 漁業士

将来の中核的漁業者として期待される漁業者や、優れた漁業経営を行い指導的役割を果たしている漁業者をそれぞれ「青年漁業士」、「指導漁業士」と県が認定し、現在120名（平成30年5月）の漁業士が地域産業の担い手として活躍しています。

### 和歌山県漁業士連絡協議会

漁業士相互の交流や資質向上、連絡調整を目的に平成元年に発足した和歌山県内の漁業士で構成される組織です。

年1回の総会のほか、他県漁業士との交流会、魚食普及活動、部会単位での会合などを通じて、お互いの情報交換や親睦を図っています。

## ～通常総会開催～

平成30年7月7日（土）和歌山県水産会館において、平成30年度通常総会を開催し、県下各地域から21名の漁業士が出席しました。

通常総会では、平成29年度事業報告、平成30年度事業計画について説明がありました。冒頭の会長挨拶では、漁業後継者対策の取り組みとして、婚活イベントを実施するほか、「徳島県・高知県・和歌山県3県交流会」の新たな立ち上げなど、充実した協議会活動について述べられました。

また、紀州日高漁業協同組合所属の松村よう子副会長が、今年度をもって、失効年齢に達するため、記念品贈呈が行われました。

総会終了後の研修会では、三重県農林水産部水産資源・経営課の藤島弘幸氏を講師に迎え、「漁師塾による担い手の確保・育成の取組について」をテーマに講演いただいた後、出席者によるグループワークが行われました。



▲総会の様子



▲記念品贈呈の様子

## ～漁民の森の下草刈り～

平成27年2月21日串本町田並に植樹した苗まわりの下草刈り、補植した苗の保育を南紀森林組合へ委託し、実施しました。

【作業完了日】 平成30年7月25日

【面積 (ha)】 0.57

※植樹している苗木の一部がシカやイノシシによる食害を受けたため、補植を行い、獣害防止用ネットを設置しました。

現在、管理を委託している南紀森林組合と連携を取り、漁業士による下草刈りの実施を検討しているところです。



左側：着手前

右側：着手後

## ～わかやま健康と食のフェスタ～

平成30年10月14日（日）和歌山市の和歌山ビッグウエーブにおいて開催された「わかやま健康と食のフェスタ2018」に出展し、塩谷昇会長が出席しました。

昨年の標記フェスタ2017では、本会初となる“お魚タッチ”が好評を得て、今年度も「お魚ふれあい体験」を出展しました。他にも栽培漁業協会からご提供いただいたイサキ・クエ・タイの稚魚を卓上に展示するなど、充実した内容となりました。

また、当日の訪問者数は約600人を越え、盛況のうちに閉会となりました。



▲全体の様子



▲展示の様子



▲水槽内の様子



▲お魚タッチの様子

## ◆◆◆ われら漁業士 ◆◆◆

紀州日高漁業協同組合  
指導漁業士 浦越 栄司

平成29年2月に、指導漁業士に認定され、漁業士連絡協議会に入会しました浦越です。部会では一本釣り部会に所属しています。

私は高校を卒業して民間企業で1年間働いた後、家業である漁業を継ぎました。現在は自立した漁業経営を行っており、漁師歴は約21年です。漁業形態ですが、春から秋までハモのはえ縄、その後、トラフグ・サバフグのはえ縄を行っています。

地域での活動としては、平成27年から平成28年まで、紀州日高漁協御坊地区青年部長、同地区の漁師らで組織する「明日の海を考える会」の会長を務め、魚食普及活動や栽培漁業などに取り組んできました。また、日高地区漁村青年協議会委員として、他漁協の漁業者との情報交換を行いました。現在は、紀州日高漁協御坊市地区運営委員を務め、漁協の運営にも関わっています。

以前、私は曳縄も行っていましたが、最近でははえ縄を主に営んでいます。カツオをはじめ多くの水産資源が減少し、また、海水温の上昇に伴ってトラフグやサバフグの漁場が北に移動するなど、漁業の将来が心配になる時もあります。しかし、たくさんの魚が釣れた時に漁業を営んでいる喜びを感じます。現実には厳しいですが、以前のようにたくさんの魚が釣れるようになり、漁村地域が元気になって欲しいと思っています。



# 浜便り ～北から南から～

## 新部会「西牟婁地区部会」の設立

西牟婁振興局 土居内普及指導員

カツオが釣れなくなって久しくなりました。和歌山県の漁業者は、かつては日本中を飛び回り、各地でその優れた漁獲技術を伝承しました。特にカツオ漁の全国的な発展は、和歌山県の漁業関係者の活躍無しには語れません。その最たるものが潜航板でしょう。カツオのケンケン漁に欠かせない潜航板は、すさみ町で専門の職人によって数多く製作され、良く釣れるとして北は青森から、南は九州から引き合いがあったそうです。しかし、カツオが釣れなくなったからか、今やすさみ町内の潜航板職人はご高齢の方お一人となったそうです。資源の減少に加え、このような伝統技術が消えゆくのは寂しい限りです。

さて、西牟婁地区で新たな部会が設立されました。西牟婁地区の部会はこれまでまき網部会のみでしたが、西牟婁の漁業はこれだけではありません。そこで、平成30年9月27日に、一本釣漁業、刺網漁業、採介藻漁業など西牟婁地区で営まれている各漁業について見識を深めることを目的とした「漁業士連絡協議会西牟婁地区部会」が設立されました。まずは近年不漁が続いているヒロメについて視察や研修を行う予定です。会員はまだ4名と少ないですが、皆さん厳しい浜の現状を何とか打開したいとの強い意気込みをもっておられます。ご賛同いただける会員の皆様は、是非入会してください。



お問い合わせ先 和歌山県漁業士連絡協議会事務局  
和歌山県漁業協同組合連合会 総務指導課 橋爪  
TEL 073-431-5101 FAX 073-422-1137  
E-mail wk-shido@wkgyoren.jf-net.ne.jp